

# 平成24年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園運営事業			会計	款	項目	大手	小事	
				01	03	02	07	02	01
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	障害者支援課					
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	増田 恒夫					

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね、3歳から18歳未満の児童とその保護者（通園児は未就学児・6歳）	意図	障がいの程度及び子供の障がいを保護者が受容する。
事業内容	月曜日から金曜日まで、親元から通園し、集団活動する。児童の社会的自立と地域での生活に向けて支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和52年マザーズホームから認可施設つばさ学園になった頃は、保護者の障害に対する認識も薄くまた、社会の障害児（者）への関心、理解を得ることが困難な時代であり、特別支援学校（当時、養護学校）の設置も少なく、就学猶予の児童等は18歳まで通園していた。現在は心身の発達に心配や遅れのある就学前の幼児が全体的な発達を目指して通園による療育指導、訓練を行っている。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成22年度	平成23年度	平成24年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	延べ利用人数	5,603	4,527	5,907	人	→→
②							
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 平成24年度は、4月1日時点で定員30名のところ32名でスタートした。1月に1名退園した。
事務事業のコスト		平成22年度	平成23年度	平成24年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		137,149,121	144,635,862	133,842,442			
事業費(b)(円)		24,735,761	29,950,632	34,760,682			
うち一般財源		24,735,761	29,950,632				
職員給与費(c)(円)		112,413,360	114,685,230	99,081,760			
人役・職員(人)		13.35	13.35	12.05			
人役・再任用(人)		5.67	5.67				
人役・臨職(人)				8.41			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H24)の改善計画	平成24年4月より児童福祉法の改正に伴い児童発達支援センターとして必須となる相談支援事業、保育所等訪問支援事業の実施に向けて準備、計画を行う。	③取り組みの課題	相談支援事業、保育所等訪問支援事業実施に向けての具体的なノウハウの蓄積が必要となる。
②今年度(H24)に実施した取り組み	児童発達支援センター化に向けて、相談支援専門員及び、児童発達支援管理責任者の資格を取得させた。	④今後の改善計画	県主催の各種研修へ参加し、また、近隣市の動向や実施している市町村からの情報収集を行いながら児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして整備していく。